

1. 教育の責任

【図書館学コース】図書館概論（春学期 1 年 2 単位）、図書館サービス概論（秋学期 1 年 2 単位）、情報サービス演習 I（春学期 4 年 1 単位）、図書館制度・経営論（春学期 2 年 2 単位）、図書館情報資源概論（秋学期 1 年 2 単位）、図書館情報技術論（春学期 3 年 2 単位）、図書館基礎特論（春学期 4 年 2 単位）、図書館情報資源特論（秋学期 4 年 2 単位）、児童サービス論（秋学期 3 年 2 単位）、図書・図書館史（春学期 1 年 1 単位）

【共通教育科目】キャリアデザイン（通年 1 年 2 単位）

2. 教育の理念

図書館学コースは、図書館司書の養成を主たる目的としている。その目的を受け私の教育理念・目標は、講義を通して、学生が司書資格を取得するまでに、図書館情報学の基礎から専門分野に至るまでのさまざまな領域の知識と技能を習得し、図書館の専門的職員である司書を養成することである。生涯学習時代において公共図書館や大学図書館の果たすべき役割は非常に大きく、利用者に対して的確で高いレベルのサービスを提供できる素養のある人材が求められている。今後の図書館で必要となる知識・技術の基礎を身に付けた司書を養成しながら、図書館情報学に対する探究への関心を深めるように育成する。

3. 教育の方法

図書館業務における専門職として司書職の理解を深めるため、講義をつうじて次の取組みを実践した。基礎科目（図書館概論、図書館制度・経営論）では、司書業務の基本的な知識を修得し、図書館サービスおよび図書館情報資源に関する科目（図書館サービス概論、情報サービス論等）で、①大学図書館を活用し多様な図書館情報資源に触れること、②学外現地調査をつうじて図書館サービスおよび資料管理の実態に触れ、講義で学んだ内容の理解を多面的に深め、レポートにまとめることを実践した。また、授業内容の確認等のために、コメントシートを通じた疑問点の確認と次回の講義におけるフィードバックを実施した。

図書館学の科目では、パワーポイントによる講義だけでなく、海外や日本国内の先進的図書館サービスを提供する図書館を直接訪問し、調査事項と直接撮った写真を講義材料として用いた。また、Web 資料や DVD などの視聴覚教材を用いるとともに、グループディスカッションやプレゼンテーション による個人発表など多様な講義方法を用いて授業を行っている。

4. 教育の成果

図書館についてより深く知ることが出来たという声が多い。図書館学で学んだ知識や技能を使い、図書館現地調査では授業での学習内容の意義を確認することができ有効であったという学生の報告が見られた。また、ワークシートやコメント、授業評価等では、学生が、図書館学の授業を受ける前と後で図書館を見る観点が変わってきていること、現地調査を通じて図書館についてより深く知ることが出来たことで実感をもって課題に取り組んでいることが把握できた。また、授業内で明確にしてきた教師のスキルを理解し、それを学生が意識していくことで授業中の態度 が意欲的になってきた。

5. 改善への努力と今後の目標

図書館学コースを担当する教員として、専門職としての意識、知識、技術を習得できるよう授業を展開する。コロナ禍の中、多様な方法で課題の達成に向けて努力してきたが、この課題の追究はこれからも続けていきたいと考える。特に、図書館の司書職が専門職である認識が持てるように、意識（精神的な部分）については、きちんと伝わるよう心掛ける。さらに専門職としての学びにとどまらず、司書の学びが、卒業後、社会人としての力になるように授業展開を工夫し、学生にもそのことを認識できるようにすることで、学びに対するモチベーションを高められるよう工夫を行ってきたい。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：孫 誌銜 作成日：2024年01月26日

【添付資料】

